ID: 21905123

# 最終課題

1.

異質的な個人を含むモデルは

$$\max_{\{c_{it}\},\{a_{it+1}\}} \quad E_0 \sum_{t=0}^{\infty} \beta^t u(c_{it}) \ s.t.$$

$$c_{it} + a_{it+1} = \{1 + r(1 - \tau)\} a_{it} + w h_{it} + T$$

$$a_{it+1} \ge -\underline{B}, \ a_{i0} \ given.$$

均衡は、以下を満たす

V(a,h),  $g_a(a,h)$ , K, H, r, w,  $\mu(a,h)$ , T の組として表される。

\*(h'|h|)は(h'|h)を意味する。 $\tau_k = \tau$ .とする。

<家計の最適化>

与えられた rとw に対し、

$$V(a,h) = \max_{a'} \quad u[\{1+r(1-\tau)\}a + wh + T - a'] + \beta \sum_{h'} V(a',h')\pi(h'|h|) \ s. \ t.$$
 
$$-\underline{B} \le a' \le \{1+r(1-\tau)\}a + wh + T$$
 
$$q_a(a,h) は最適化ルール$$

<企業の最適化>

与えられたrとwに対し、

$$\max_{\substack{k,h}} F(k,h) - (r+\delta)k - wh \, such \, that \, k \ge 0, \, h \ge 0.$$

<政府>

 $\tau rK = T$ .

<市場清算>

(1) 労働  $H = \sum_{h} h \pi^*(h)$ ,

(2) 資本  $K = \sum_{a} \sum_{h} g_a(a,h) \mu(a,h)$ ,

(3) 財 
$$F(K,H) = \sum_{a} \sum_{h} [\{1 + r(1-\tau)\}a + wh + T - g_a(a,h)]\mu(a,h) + \delta K.$$

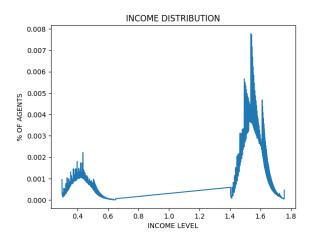
<運動法則>

$$\mu(a',h') = \sum_{a} \sum_{h} \mathbf{1} \{a: g_a(a,h) \in a'\} \pi(h'|h|) \mu(a,h)$$

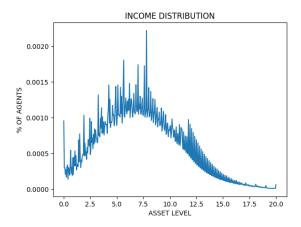
2.  $\tau_k = 0$  の時、

$$K = KK \times 401 = 8.041822600504139 \times 401 = 3224.7708628021596$$
 
$$w = 1.3033754232108015$$
 
$$r = 0.017633798605864934$$

・横軸 wh+ra の場合



・横軸aの場合



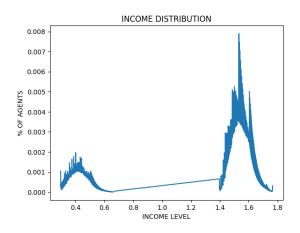
# 3. $\tau_k = 0.05$ とした時、

### $K = KK \times 401 = 7.8637379482131875 \times 401 = 3153.3589172334882$

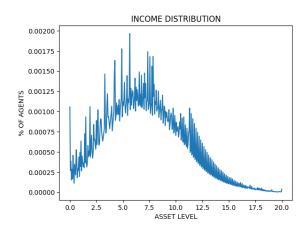
#### w = 1.296078556201679

### r = 0.018442865334150668

## ・横軸 wh+ra の場合



# ・横軸aの場合



資本所得税率 0% の場合における所得の標準偏差は 0.5623476540194091, 合計は 824.1761119158209. 一方、資本所得税率 5% の場合における所得の標準偏差は 0.5601768244358559, 合計は826.8424762052208.

資本所得税率を0%から5%に増加させた場合、所得の標準偏差は約0.386%縮まり、総所得は約0.324%増加した。

この経済においては資本所得税を増加させるべきと考える。なぜならば所得格差を是正しつつ 総所得の増加が期待されるからである。